

2023(令和 5)年度入学試験問題

国 語

(注意) 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

盈進中学校

□ 次 の _____ 線部の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

- ① まるまる肥えた子ぶた。
- ② 最後まで油断は禁物だ。
- ③ 公園の樹木を大切にする。
- ④ 時計の秒針がずれている。
- ⑤ 北海道は日本一の穀倉地帯だ。
- ⑥ 姿勢をよくして話を聞く。
- ⑦ 分厚い本を持ち上げる。
- ⑧ 長編小説を読破する。
- ⑨ 車窓から雪景色をながめる。
- ⑩ 悲痛なさけび声が響く。
- ⑪ 人間はみなヒトしい。
- ⑫ ポスターをインサツする。
- ⑬ 世界文化イサンを研究する。
- ⑭ 四国サンミヤクをこえる。
- ⑮ 幼い弟がナマイキなことを言う。
- ⑯ 銀行にお金をアズける。

- ⑰ 手紙のブンメンを考える。
- ⑱ 将来は親コウコウしたい。
- ⑲ 集団をヒキいる。
- ⑳ ついに目標をタツセイした。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この本を読んでいる皆さんは今、何を着ていますか？ Tシャツとジーンズでしょうか、学生服でしょうか、パジャマでしょうか。いずれにしても「①洋服」ですよ。つまり「洋」の服です。洋服という言葉は日常語になっていますが、わざわざ「洋」をつけているのは、服に洋ではないものがあつた時代の名残なごりです。日本人はずっと服を着てきましたが、ほとんどの人が「洋服」を着るようになったのはこの五〇〜六〇年間ぐらいのことです。

しかも世界中の人が洋服を着ているわけではありません。伝統文化の力で経済的・文化的自立を果たそうとしているブータンという国では、男性も女性も洋服を着ていません。②ブータン服を着ています。外国でブータン服は作れないので、国内の産業になっていません。ウエトナムやラオスやミャンマーやカンボジアでも、多くの人がそれぞれの民族の服を着て働いています。

日本人が皆日本の服を着て働き、それを自分たちの産業にし、大きなお金を動かし、たくさんの人がそれに関わる仕事で働くことができたのは江戸時代でした。盛んな産業であつた秘訣ひけつは、日本の服に变革と流行があつたことです。常に新しい色や柄がらや技術が開発され、人が服を買うことを楽しんだからでした。その变革と流行のきっかけは、外国からの情報でした。つまり、※グローバリゼーションの中にあつたからこそ、③それができたのです。

この章では、グローバリゼーションの中の江戸の衣服についてお話しましょう。

戦国時代や江戸時代、人々は何を着ていたでしょう？ そう、むろん和服（着物）ですよ。では和服とはどういう衣装ですか？ 今、結婚式や七五三しちごさん、成人式せいじんしきで着る衣装、あるいは男性なら落語家らくごさんたちが着ている衣装や、時代劇ドラマの中の衣装を思い浮かべると思えます。

では、あれらの衣装はどこから来たのでしょうか？ 和服を売る店を「呉服屋ごふくや」と言います。和服は実は、和≠日本の服ではなく、中国の※呉ごの服なのです。中国古代を舞台にした映画では、日本の着物とそっくりな衣装を着ていることに気づくと思います。首の前

で襟えりを合わせる方法は、韓国朝鮮かんこくちよせえんのチマチョゴリも同じで、これも中国から来た衣装です。琉球王国りゅうきゅうおうこく（現在の沖縄）も④同じ形の衣装です。ブーツでは今でも男性の正式な衣装は、日本の着物と全く同じ形をしています。これはすべて中国由来で、着物は正確にいえば東アジア共通の衣装なのです。

A 違ちがっていることもあります。たとえば袴はかまや羽織はおりです。これらは日本で独自に発明され、付け加えられたと思われます。着物を見ていると日本にはズボンが無いかのように思えますが、実は袴に代表されるズボン系の衣装は実に豊かです。カルサンとか「たつつけ」と呼ばれる、足首のところがすばまっているズボンは、戦国時代の男性も江戸時代の男性もよく穿はいていました。カルサンというのはポルトガル語です。中国由来の着物に、ポルトガル由来のズボンを穿はいていたというわけです。

B、上杉謙信うえすぎけんしん（一五三〇〜七八）が穿はいていたと言われている革かわのカルサンが残のこっています。それは明るい茶色で裾すそがすばまっていますが、その裾にはいくつものボタンがついています。ボタンという言葉もポルトガル語で、「つき出たもの」という意味です。ヨーロッパでは一四世紀から上流社会で流行し、一六世紀ではまだ一般的いっぱんではなかったようですが、日本の武将たちはもう使つかっていました。ボタンは陣羽織じんばおり（武士が戦時の陣中じんちゆうで着た羽織）や足袋たびにも使つかわれていました。

その陣羽織も、ポルトガルの影響えいきやうを強く受けました。やはり上杉謙信が着きていたと言われる陣羽織は内側には中国の金襴きんらんを使い、紺色こんいろの羅紗らしやを胴体どうたいに、赤い羅紗を袖部分そでに配置し、金糸きんしで縁取りふちどりをしてあります。ラシヤとは毛織物のことです。日本では羊類を飼育こんいろうしませんでした。⑤品しんです。一四世紀ごろからラシユカ（現在のセルビア南部とモンテネグロ一帯と思われ）で織おられ、クロアチアのドウプロブニクからヨーロッパ諸国に広まりました。それでポルトガル人はラーシヤと呼んでいました。その色の配置やデザインも、それまでの日本や中国では見られないものです。

このように、ポルトガル船が運たってきたものは、ポルトガルのものだけではありませんでした。当時のポルトガルは決して日本より技術が進んでいるわけではなく、むしろ中国やインドの技術産品や日本の銀、モルツカ諸島しよとうの胡椒こしやうを求めてアジアに来ていたのです。この陣羽織の内側に使つかっている中国の絹織物きぬもまた、ポルトガル船が運たってきたものです。日本に運たんでくる積み荷の約九〇%が中国の生糸なま、絹織物きぬでした。つまり日本はポルトガルという国をあてにしていたのではなく、中国の物資を運たんでくれる船が欲ほしかっただ

けなのです。ですから、江戸時代になってポルトガル船、スペイン船への渡航禁止令を出しても、⑥日本はあまり困りませんでした。オランダ東インド会社が、ポルトガル船の代わりをしてくれたからです。当時の日本人にとって、ヨーロッパは便利な運送屋さんに過ぎませんでしたので、差別的な「南蛮（南の野蛮な人）」という呼称を使ったのです。

しかし尊敬の対象ではなくとも、彼らのファッションには極めて強い関心を示し、今でもたくさん残っている南蛮屏風には、詳細に彼らの衣装が描かれています。※宣教師と商人は描き分けられ、船員と船長、マレー系かインド系と思われる使用人たち、荷揚げされる動物たちも、実に詳しく描かれました。そのような関心が、ファッションの導入につながったのです。日本人は何より、ポルトガル人のファッションを面白いと思ったのです。

（田中優子『グローバリゼーションの中の江戸』より）

※グローバリゼーション：国家や地域をこえて、経済や文化などが世界規模で広がること。

※呉：古代中国にあった国の名前。

※宣教師：キリスト教を伝えるために海外に派遣された司祭、神父。

問一 線部①「洋服」とありますが、同じように「和□」／「洋□」が対義語になる共通の漢字を、(例)にならって二つ考えて

書きなさい。

(例) 和服 / 洋服 …… 解答用紙に「服」を書き入れる

問二 線部②「ブータン服を着ています」とありますが、それはなぜですか。解答らんの文に続けて、本文中の語句を用いて

三十字程度で答えなさい。

ブータンは（ ）。

問三

線部の「主語（主部）」と「述語（述部）」にあたる部分を、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

「^アヴェトナムや^イラオスや^ウミャンマーや^エカンボジアでも、^オ多くの人が^カそれぞれの^キ民族の^クカ服を^ケ着て働いています。」

問四

線部③「それ」が指している内容を説明した次の文の空らん（Ⅰ）（Ⅱ）にあてはまる語句を、本文中からそれぞれ五字以上七字以内で抜き出して答えなさい。

（Ⅰ）（Ⅱ）をきつけに、日本の服に（Ⅰ）（Ⅱ）がもたらされ、服作りが産業になったこと。

問五

線部④「同じ形の衣装」とありますが、それはどのような形ですか。「く形。」に続くように、本文中から十字で抜き出しなさい。

問六

空らん A、B にあてはまる最も適切なことばを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

（同じ記号は一度しか使えません。）

- ア そのため イ つまり ウ しかし エ たとえば オ なぜなら

問七 空らん ⑤ にあてはまる熟語を考えて、漢字二字で書きなさい。

問八 線部⑥ 「日本はあまり困りませんでした」とありますが、なぜ困らなかったのですか。その理由として最も適切なものを

次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ポルトガル船が運んでくれるヨーロッパのめずらしい物品よりも、生活になじんでいる中国やインドの物品のほうが、当時の日本においては必要とされたから。

イ 日本は、ポルトガルの物資をあてにしていたのではなく、ポルトガル船が運んでくる中国の物資が欲しかっただけであり、ポルトガル船の代わりとなる船もあったから。

ウ 当時の日本にとってヨーロッパから来る船は野蛮な船とされ、ポルトガル船に渡航禁止令を出すことでかえって日本の安全が守られることがわかったから。

エ 江戸時代の日本は、ポルトガルから伝わってくる文化や技術を必要としなくなり、たとえ交易を中止してもそれほど大きな影響を受けることがなかったから。

問九 本文の内容を説明した次の文のうち、正しいことを述べているものはどれですか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 戦国時代や江戸時代は、ほとんどの人がカルサンを穿き、それにボタンをつけて変化させるような工夫を楽しんでいた。

イ 「洋服」が日常語となったのは、日本の産業として成長し、人々がそれに関わる仕事で生活できるようになったからである。

ウ 結婚式や七五三、成人式で着る袴や羽織は、古代中国で生まれたもので、戦国時代に呉服屋を通して日本全体に広まった。

エ 戦国時代や江戸時代の日本人は、外国人の衣装に強い関心を持ち、特にポルトガルのファッションを面白いと思っていた。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

主人公の七海^{ななみ}はアメリカ人の母と日本人の父を持つ小学六年生である。夏休みに母と訪れたハワイで、海洋ごみをアート作品にするオーガストさんと出会い、彼の展示会に招かれた。

雪原も氷もない、どこまでも茶色の地面にすわりこんで、しょんぼりしている白くま。

海上に、わずかに残されている氷の上に、かろうじて立っている、骨と皮だけになった白くま。

ありとあらゆるごみが押しよせてできている「ごみの島」。その上に群がっている、無数の白くまたち。なかには、生まれたばかりの子ぐまもいる。

白くまの白さと、色とりどりのごみの対比がなんとも言えず残酷^{ざんこく}で、ぶきみだ。

ごみはすべて、人間がつくりだして、人間が捨てたものだ。

地球上で、こんなことが起こっているのか。

白くまたちの泣き声が聞こえてくるようだった。

「雪原と氷を返して」

「海を返して」

「海は、ごみ捨て場じゃない」

地球温暖化と海の汚染^{おせん}は、野生動物たちをここまで追いつめているのか。

取りかえしがつかなくなるまでに、ぼくたちにできることは、あるのだろうか。

あるとすれば、それは、どんなこと？

ごみを捨てない。

ごみを出さない。

ごみになるようなものを買わない。

ごみになるようなものを売らない。

ごみになるような製品を製造しない。

①ことばにするのはかんたんだし、頭ではわかっているけれど。

たとえば、ジュースを買って飲んだあとは、空き缶かんや空きびんをリサイクル箱に入れる。スーパーマーケットやコンビニエンスストアで買い物をするときには、レジぶくろをもらわず、エコバッグを使う。落ちているごみがあったら、拾って、ごみ箱に入れる。

ぼくにできることは、せいぜい、それくらいだ。

それ以外に、何を、どうすればいいのだろう。

どうすれば、白くまたちを、この海を、救うことができるのか。

ぐるぐるぐるぐる、出口のない迷路のなかで行ったり来たりしながら、答えの出ない問いかけと戦っているさいちゅうだった。

——こんにちは。あなたは、白くまさんに関心があるの？

近くに立っていた女の子から、ふいに声をかけられた。

はっとして、となりを見ると、ぼくを見つめている女の子の瞳ひとみと、ぼくの瞳がぶつかりあった。

女の子はにっこり。ぼくはどつきり。

なぜ、どつきりしたのかというところ、「あ、かわいいな」って、思ったからだ。

瞳の色は、濃い茶色。肌はだの色は、こげ茶色。長く伸ばした髪かみの毛はまっ黒で、ぼくよりもちよつとだけ背が高い。ぱつと見た目には、

日本人に見えないこともない。

あわてて、あいさつをした。

——こんにちは。初めまして。ぼくの名前は、ナナミです。日本からやってきました。白くまの写真に、ショックを受けています。彼女はやわらかな笑顔のままで、こう言った。

——どんなショック？ 説明して。

ううっ、急に「説明」なんて言われたって、困るよ。

あせりながらも一生けんめい、英文を組みたてた。

——白くまは、日本の動物園で見たことがあります。こんなふうには、自然のなかで生きている白くまのことを、今まで、想像したことがありませんでした。ぼくは動物が好きです。だから白くまも好きです。だから白くまたちには幸せに、くらししてほしいと思います。だから、だから……だから、ぼくたちは……

ああ、もっと英語の勉強をしておけばよかった。オーガストさんに会ったときと同じことを思っている。

②

しどろもどろのぼくの話の話を聞きおえると、彼女はぼくに向かって、すっと手を差しだした。握手だ。いちおう「合格」だったのかな。

——わたしの名前は、ピカケ。ピカケはハワイ語で「くじゃく」という意味。だけど、ピカケは花の名前でもあるの。ジャスミンに似た白い花で、とてもいい香りがするのよ。

そういえば、コテージの庭にも、白くて小さくていい香りのする花が咲いていた。

あれは、ピカケだったのかな。

なんと、ピカケさんは、ぼくと同じ、小学六年生だという。もともと、アメリカでは九月から新学期が始まるので、来月から彼女は中学生になるわけだけど。

ぼくは、差しだされた彼女の手をにぎった。

それにしても、なんてかわいいんだろう。友だちになりたい。いや、友だち以上だっていい。

そこまで思ったとき、③ぼくの頭のなかに、ぴかっと電球がともった。

あ、もしかして、この子は――

「おれの友だちのひとりに、きみと同じくらいの年齢ねんれいの女の子がいる。彼女は生まれつき片方の足がもう片方よりも短くて、歩くのに少し苦労している。これはおれの想像にすぎないのだが、彼女は、ヴェトナム戦争で……」と、オーガストさんが言っていた子？

ピカケさんは、それまで軽くにぎっていたぼくの手を離すと、にこっと笑いかけてくれた。心臓がどきんとする。

――ナナミ、あなたの名前には、どんな意味があるの？

ん？ ぼくの名前の、意味？

一瞬いつしゆん、考えこんでしまったものの、それは一瞬のことだ。自分の名前なまえの意味くらい説明できないで、どうする。

――ぼくの名前の意味は、七つの海です。

――まあ！ そうなの！ セブンシーズ？ 地球上の七つの海ね。七つの海は、すべての海。すべての海は、ひとつの海。すばらしい名前をつけてもらったんだね。ナナミは、ひとつの海なのね。

ぼくは照れた。照れながらも、大いに喜んでいる。

北大西洋、南大西洋、北太平洋、南太平洋、インド洋、北極海、南極海。

現代では、地球の海はこの七つの大洋から成りたっているとされている。しかし、海は七つに分かれているものではなくて、ひとつにつながっているものだ。だから、ピカケさんの言ったとおり、七つの海とはすなわち、ひとつの海、ということなのだ。

喜びながらも、ぼくは感激かんげきしている。

ぼくの名前について、そんなふう言ってくれたのは、ピカケさんが初めてだ。

日本では「女の子みたいな名前だ」と言われて、いつも笑われたり、からかわれたりしている。だから、父ちゃんと母ちゃんをうらんでもいた。

――ぼくの母はアメリカで生まれ育って、ぼくの父は日本で生まれ育って、ふたりはサンフランシスコで出会って、結婚けっこんして、日本で

くらすようになって、ぼくが生まれました。両親はアメリカと日本のあいだにある海を越えてつきあっていたから、ぼくに「七海」という名前をつけたのです。この話は、おばあちゃんから聞きました。

というようなことを下手な英語で話した。

名前をほめられたことで自信が持てたせい、下手な英語ではあったけれど、しっかりした口調で話せたような気がする。

名前の話が終わると、ピカケさんはぼくの手を取り「こっちへ来て」と言いながら、ぼくを引っぱっていった。

――すてきな名前のナナミ、あなたに、いいものを見せてあげる。

いいもの？

それはたしかに「いいもの」だった。

ピカケさんが案内してくれたのは、ギャラリーの奥の方にある小部屋――黒いカーテンで仕切られたスペースで、ひとりかふたりずつ、なかに入れるようになっていた。

入り口にかかげられているプレートには「Sustainable Beach」と書かれている。

サステナブル・ビーチ。

「サステナブル、サステナブル、サステナブル」

心の中で三回つぶやいたあと、このことばの意味を思いだした。五年生のとき、理科の先生が教えてくれた。サステナブルには「環境破壊をしないで、継続させていく」という意味がある。つまり「サステナブル・ビーチ」とは、永遠につづいていく、持続可能な、破壊されていない海辺、という意味だ。

それがこのカーテンの向こうにあるってこと？

ぼくたちは、いっしょに小部屋に入っていた。ちよつと、じゃなくてかなり、胸がどきどきした。

三つの壁の全面に、ひとつつづきの海の絵が描かれている。水彩画だ。

左の一枚には、とても小さな植物プランクトンと動物プランクトン。

中央の一枚には、小さな魚、小さな貝類、中くらいの魚、中くらいの貝類。

右の一枚には、大きな魚、もっと大きな魚、海亀うみがめ、そして、最後にくじら。

海や波や、海を照らす太陽の輝かがやきはダイナミックに、海の生き物たちはとても細かく、まるで写真のように精密せいみつに描えがかれている。いったいだれが、どんな画家がこの絵を描いたのだろう。

こんな壮大そうだいな絵を。

こんな美しい絵を。

海と海の生物に対して、こんなにも愛情のあふれる絵を。

ピカケさんが説明してくれた。

ぼくは全身を耳にして、彼女の英語を聞きとろうとした。

——植物プランクトンは、陸上の植物と同じように、光合成をして生きている。動物プランクトンは、植物プランクトンを食べて、生きています。小さな魚は動物プランクトンを食べて、中くらいの魚は小さな魚を、大きな魚は中くらいの魚を食べて、生きている。

あ、それならぼくにもわかる。

——食物連鎖れんさだね？

英語では「フード・チェーン」——食べ物の鎖くさりだ。

——そう！ そのとおり。

ピカケさんは、右はしに描かれているくじらの絵の前に立って、言った。

——この子はね、大量のプラスチックのふくろを飲みこんで、死んでしまったの。これは、わたしの両親の生まれた国ヴェトナムの、隣国りんごくであるタイの海岸で、起こったできごとなのよ。解剖かいぼうした結果、おなかのなかから、八十枚以上のプラスチックのふくろが出てきたの。

——八十枚以上？

——そう、八十枚以上。くじらだけじゃないの。いるかも、ペンギンも、あざらしも、あしかも、鮫さめも、海亀も、海鳥たちも、いかも、たこも、魚たちも、みんな、プラスチックのごみを食べてるの。食べざるを得なくなっているの。これが、わたしたちの地球の七つの海で起こっているできごと。

ぼくは何も言えなくなった。

頭のなかで「プラスチックを食べる」ということばがこだましている。

——ナナミ、わたしたち人間は、そういうお魚を食べているってことなの。人間の捨てたプラスチックのごみは、まわりまわって、わたしたちの口のなかに返ってくるの。

何か言わなくちゃ、と、あせっているだけで、ことばが出てこない。

カラフルなつぶつぶの落ちているビーチや、白くまたちがごみを食べながら生きている海は、④ ④ではないってことだ。
くじらたちがこんなにも無残な形で死んでいくなんて、④ ④じゃない！

ピカケさんも、だまっている。

ぼくらはだまって、海の悲鳴を聞いていた。

海が泣いている。海が、魚たちが、くじらたちがさげんでいる。

海がぼくらに呼びかけている。

助けて！と。

——だからさ、ぼくらができることを、なんでもいいからして、なんとかしないといけないんだ。なんとかしないと、ますますたいへんなことになる。

ギャラリーからコテージにもどっていく車のなかで、⑤ ぼくはしゃべりまくっていた。 あふれる泉のように、流れる川のように。

英語で、だ。

こうなったら、母ちゃんを相手に、英会話の猛勉強もうをしてやるぞ、と、ぼくは決意したのだった。母ちゃんは、びっくりしていた。

びっくりしていたけど、うれしそうでもあった。

ぼくがまだ赤ん坊ぼうだったころ、母ちゃんとは英語で話していたらしい。

しかし、保育園に行くようになってから、ぼくは英語を忘れてしまった。そうして、これまでずっと、母ちゃんと英語で話すことを拒否きよひしてきた。だって、英語がうまくなつたって、いじめられるだけだと思っていたから。

でも今はちがう。もっとうまくなりたい。

もっとうまくなつて、ピカケさんやオーガストさんと、すらすらしゃべれるようになりたい。

ハンドルをにぎって、まっすぐに前を見つめたまま、母ちゃんと言う。

——だけどね、ナナミ、⑥英語力とは、ただ単に、うまくしゃべれるってことを意味してるんじゃないのよ。たいせつなのは、しゃべる「内容」がその人にちゃんとあるかどうか。たとえば、洋服を思いうかべてみて。洋服がどんなにすてきでも、それを着ている「なかみ」つまり、その人がすてきじゃなかったら、すてきとは、言えないでしょ？

——うん、理解できるよ。言いたいことをきちんと言う、ってことでしょ？ 英語ができるってことは、英語できちんと、自分の意見を言えるってことなんだよね。

自分の意見を持つ、自分の意見を言う、ということ。

意見をことばにして、だれかに伝える、ということ。

そのことによって、ぼくはきつと、もっと強くなれる。ハーフをダブルに変えて、自分の弱みを強みに変えていける。人とおんなじじゃないこと、ちがっていること、つまり⑦ぼくの「個性」を、生きていくための武器にできる。

(こでまり
小手鞠こでまりるい『サステナブル・ビーチ』より)

問一

線部① 「ことばにするのはかんたんだし、頭ではわかっているけれど」とありますが、このあとに続くことばを自分で考えて、分かりやすく答えなさい。

ことばにするのはかんたんだし、頭ではわかっているけれど（ ）。

問二

空らん ② に入ることわざとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 百聞ひやくぶんは一見いっけんにしかず
- イ 立つ鳥あとをにごさず
- ウ 頭しりかくして尻しりかくさず
- エ 後悔こうかい先に立たず

問三

線部③ 「ぼくの頭のなかに、ぴかっと電球がともった」とありますが、その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ピカケさんが、以前オーガストさんの話の中に出てきた女の子であると気づいたから。
- イ かわいいピカケさんの手をにぎって、身動きが取れないくらいに緊張きんちやうしたから。
- ウ ぼくよりも少し背の高いピカケさんが、ぼくと同じ小学六年生だと知って驚おどろいたから。
- エ 生まれつき片足が短いピカケさんが、歩くのに苦労していると知って悲しくなったから。

問四

本文中二か所の空らん ④ には同じことばが入ります。あてはまることばを、本文中から六字で抜き出さない。

問五

線部⑤「ぼくはしゃべりまくっていた」とありますが、このときの七海の思いとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 環境破壊はどうしようもならないところまですすんでいることを、早く英語で世界に発信しなければならない。
- イ プラスティックによって生き物たちを次々と死なせてしまっている人間の行いを、決して許すことはできない。
- ウ 海の汚染を止めるためにどんな小さなことでもよいから、すぐに自分にできることを始めなければならない。
- エ 苦しむ生き物たちの「声」を聞き、その命を守るために、世界中の人たちとじっくり話し合わなければならない。

問六

線部⑥「英語力とは」とありますが、母との会話を通して七海は「英語力」とはどのような力だと理解しましたか。解答用紙の空らんに合わせて、本文中の語句を用いて三十字程度で答えなさい。

ただうまくしゃべれるということではなく、

力。

問七

線部⑦「ぼくの『個性』を、生きていくための武器にできる」とありますが、あなた自身はどのような「個性」を持っていますか。そしてその「個性」はどのような武器になると思いますか。次の条件にしたがって書きなさい。

書くときの条件

- ① 文章は百字以上、百二十字以内で書きなさい。
 - ・一文目には、あなたの「個性」を書きなさい。
 - ・二文目以降は、その「個性」は生きていく上でどのような武器になるのか、説明しなさい。
 - ・段落は変えないこととします。
- ② 文字は濃く、大きく、ていねいに書きなさい。

問八 この小説を課題本として読書会を行いました。【感想の話し合いの様子】をふまえて、あとの問いに答えなさい。

【感想の話し合いの様子】

Aさん この小説では、様々なテーマを読み取ることができました。最初の場面で七海が白くまの写真を見てショックを受け、考え込む場面がありますが、環境問題については私も七海と同じようなことを感じるがあります。

Bさん ピカケとの出会いで七海は自分がなすべきことについてははっきりと気づきましたね。特にピカケが「いいもの」に案内してくれる場面が印象に残っています。美しい海を描いた三枚の絵でしたが、二人はその絵から① 〆を聞き取っていましたね。

Cさん 学校の図書館にも「SDGs」に関するたくさん本が置いてあるので、何さつか読んでいますが、この小説のストーリーと深くつながるところがあると思いました。海の生き物たちが② 〆を食べて死んでいることをピカケが語る場面がありますが、同じようなニュースを何度か見たことがあります。

あなた 私は七海とピカケの会話の中で、ピカケが七海の名前を「ひとつの海」と表現した場面が心に残っています。海がひとつであるということは、海の問題について考えるときにとっても大切なことだと思います。

(なぜなら

③

〆)。

(i) 空らん (①) () (②) () にあてはまることばをそれぞれ本文の語句を用いて答えなさい。

(ii) 空らん (③) () には、「海がひとつである」ということは、海の環境問題について考えるときにとっても大切なことだ」といえる理由が入ります。あなたが考えるその理由を、次の条件にしたがって書きなさい。

書くときの条件

① 文章は書き出しに続けて、二行以上で書きなさい。

② 文字は濃く、大きく、ていねいに書きなさい。

四

次の言葉を例にならってローマ字（ヘボン式）に直して答えなさい。なお、書き出しはすべて小文字とします。

- ① 電話（でんわ）
- ② 鞆（かばん）
- ③ 雑誌（ざっし）
- ④ 辞書（じしょ）
- ⑤ 寄り道（よしみち）

例 盈進（えいしん）

eishin